

## 平成 26 年度 地域貢献活動支援報告書

社会連携研究センター長 殿

所 属 人文学部  
氏 名 豊福 裕二

活動テーマ	遊休農地を活用した体験農園の開設による食育及び産消連携と国際交流の推進
実施期間	平成 26 年 4 月 1 日 ～ 平成 27 年 3 月 31 日
活動内容	<p>(1) 具体的な活動実施内容</p> <p>本事業は、人文学部法律経済学科の教員と津市渋見町の農家とが共同で実施するもので、渋見町内の遊休農地を活用して、主に近隣の保育園・幼稚園児が農業体験を行う体験農園を運営するものである。本事業の目的は、実際の農業体験を通じて保育園児や幼稚園児に日本の農業や食文化についての理解を深めてもらう（＝食育）と同時に、園児と農家、さらには園児の保護者と農家との交流を図ることで、生産者と消費者との連携（産消連携）を促進することにある。また、ここ数年、人文学部のドイツ人留学生が芋掘り体験に参加することが恒例となってきたことから、今年度は、留学生がより主体的にイベントに参加し、国際交流を深めることを事業の目的として位置づけた。</p> <p>具体的には、昨年度に引き続き、遊休農地のうち5畝（約500㎡）を整備した「渋見ふれあい農園」において、津市内の「さつき保育園」の園児と「安東幼稚園」の園児および保護者が農業体験を行った。作付けした品目はジャガイモ、サツマイモなどの芋類で、日常的な管理は渋見町の農家の方々が担当し、サツマイモの苗の植え付け体験と、ジャガイモ、サツマイモの収穫体験を園児および保護者が行った。例年、サツマイモの収穫体験の際に畑で焼き芋を作り、園児・保護者、農家と一緒に食べるイベントを実施してきたが、今年度はドイツ人留学生の希望で、ジャガイモの収穫の際にジャガイモの焼き芋を作るイベントを行った。ドイツではジャガイモを焼き芋にして食べる習慣があるとのことで、芋を洗ったり、火を起こしたりといった準備をすべて留学生が行い、園児らに焼き芋をふるまった。例年に増して留学生と園児らとの交流も深まり、きわめて有意義なイベントとなった（添付資料1参照）。</p> <p>(2) 地域への貢献（地域の発展・活性化への寄与、広がり）</p> <p>本取り組みは、遊休化していた農地を再活用する試みであり、地域資源の有効活用としてそれ自体大きな意義を持っている。また、本取り組みは渋見町自治会の「サロン事業」の一環でもあり、体験農園の管理や収穫イベントは渋見町老人会（常楽会）のレクリエーションとして位置づけられている。体験農園での園児とのふれあいは、高齢者の健康増進という点でも意義を有するものである。遊休農地を活用したユニークな取り組みであるとして、今年度は津市農業委員会から取材の依頼があり、『津市農業委員会だより』第21号に記事が掲載された（添付資料2参照）。</p> <p>現在、体験農園として整備しているのは5畝（約500㎡）にすぎないが、遊休化している農地は合わせて3反（約3000㎡）あるため、本取り組みが軌道に乗れば、将来的には、体験農園のみならず、園児の保護者や近隣住民との契約栽培・直売など、事業の広がりが期待できる。ただし、畑としての活用には土</p>

壤の改良や水路の整備等が必要であり、そのための費用等をどう捻出するかが今後の課題である。なお、今年度は大学からの補助を活用して、イモ類の栽培に適した土壌改良に向けて、若干の整備を行うことができた。

### (3) 共同実施者との連携状況

共同実施者である渋見自治会の生産者の方々とは定期的に話し合いの機会を設け、事業計画の策定に教員が関わるとともに、保育園・幼稚園との話し合いの場や、収穫イベントにも教員が随時参加するなど、緊密に連絡を取り合う関係を築いている。

### (4) 大学の教育・研究成果のかかわり

本事業は、人文学部社会動態研究センターにおいて2008年度から行っている研究プロジェクト「都市近郊団地における高齢者世帯の日常生活支援―産消連携による農産物直売システムの構築に関する研究」の成果をふまえたものである。同研究プロジェクトでは、都市近郊農地の有効活用と産消連携の推進をテーマに、津市渋見町の生産者と交流を深め、学習会等を実施してきた。本事業は、人文学部の教員と渋見町の生産者とが新たな産消連携の方策を話し合うなかで出されたアイデアを具体化したものである。

また、今年度は人文学部のドイツ人留学生が主体的にイベントを企画する試みを行い、異文化交流の場としても本事業を位置づけることができた。今後もこうしたイベントを定例化するとともに、他国の留学生や、日本人学生が関わるイベントも増やしていきたいと考えている。

### (5) イベント等開催実績（名称，実施場所，参加人数等）

\*実施場所はいずれも「渋見ふれあい農園」

5/13 サツマイモ苗植え（さつき保育園）：園児・先生約 30 名／生産者約 10 名

5/14 サツマイモ苗植え（安東幼稚園）：園児・先生約 30 名／生産者約 10 名

6/19 ジャガイモ掘り（さつき保育園）：園児・先生約 30 名／生産者約 15 名

6/20 ジャガイモ掘り・焼き芋（安東幼稚園）：園児・先生約 30 名／生産者約 15 名／留学生 4 名

10/23 サツマイモ掘り・焼き芋（さつき保育園）：／園児・先生約 30 名／生産者約 20 名

10/24 サツマイモ掘り・焼き芋（安東幼稚園）：／園児・保護者・先生約 50 名／生産者約 20 名

### (6) これまでの取組みによって得られた具体的な成果について

2010 年度から行っている本取り組みであるが、参加している「さつき保育園」、「安東幼稚園」にとってはすでになくはないイベントとして定着している。また、渋見町老人会に集っている高齢者たちにとっても、体験農園の準備やイベントでの園児たちとの交流は、ユニークなレクリエーションとして位置づいている。農業関係の諸団体からの取材も多く、都市近郊の遊休農地の活用方策として、注目すべき取り組みになっているといえる。また、今年度から始めたドイツ人留学生らによる「ジャガイモの焼き芋」イベントも、定着すればきわめてユニークな取り組みになると思われる。上述の通り、事業の拡がりという点で潜在的な可能性はあるが、目下のところ、ほとんど生産者のボランティアベースであり、資金面で課題を抱えている。また、生産者も高齢化しており、中心メンバーが元気で意欲的のうちには事業を大きくしたいところである。すでに継続的な支援をいただいたところであるが、大学には引き続きもう一段の支援をお願いしたい。

・ジャガイモの焼き芋イベントの様子



火起こし



芋の準備



ジャガイモ掘り



焼き芋を食べる園児たち



園児と交流する留学生

# 津市農業委員会だより

第21号 平成26年7月発行

編集発行  
津市農業委員会

〒514-8611  
津市西丸之内23番1号  
電話番号 059-229-3176



遊休農地を活用した農業体験（津市洪見町）



## 地域情報

### ～遊休農地を活用した農業体験～ （津市洪見町）

洪見町内の遊休農地を活用した「洪見ふれあい農園」で近隣の保育園・幼稚園児がサツマイモの植え付け体験を5月に行いました。

この活動は、遊休農地の解消、子どもたちの食育、生産者と消費者の連携を目的に、地域の自治会や老人会、三重大学が協力して実施しています。また、地域住民の交流の場と



「ベッドをつくって、横に寝かせて、お布団かけて」



お水もしっかりあげました。

しても大きな役割を担っています。

園児たちは、洪見町自治会のサロン活動（注）である「サロン洪見」のメンバーに植え方を習いながら、サツマイモの苗を一生懸命植えていました。「サツマイモはいつできるの？」と今から収穫が待ち遠しいようです。

今回植え付けを行ったサツマイモは10月に収穫し、園児、保護者、サロン洪見のメンバーで焼き芋を楽しむ予定です。

サロン洪見の谷口代表は「農業に興味を持ってもらえて、将来の担い手となってもらえたら」と話されていました。

注：サロン活動とは、地域の住民同士のつながりを深める自主活動の場です。